


PRESENT

アンケートに答えてプレゼントをGETしよう!

応募期間
11/1~11/30

A 秩父 中村屋
ちちぶまゆ [3個入り袋×3]

3名様



2~3ページで紹介した秩父 中村屋の「ちちぶまゆ [3個入り袋×3]」を3名様にプレゼント!

B MAPLE BASE (メープルベース)
ドリンクチケット

5名様



※イメージです
※コーヒーまたは紅茶 (Hot/Ice)のみ

4~5ページで紹介したMAPLE BASE (メープルベース)の「ドリンクチケット」を5名様にプレゼント!

C ちちてつe-shop
熊谷うどん~40.9度の麦畑~
4人前セット

5名様



11ページで紹介した全国ご当地うどんサミット2018in熊谷に合わせ、ちちてつe-shopから「熊谷うどん」を5名様にプレゼント!

秩父鉄道ホームページ内の
応募フォームからお申し込みください。

秩父鉄道 検索 または



定期購読のご案内

「PALETTE」を毎月ご希望の方に定期購読をご案内しています。詳しいお申し込み方法については裏表紙をご覧ください。

秩父鉄道 企画部
048-523-3313
平日9:00~17:00

編集後記

今月はカエデづくし!大変美味しい取材となりました。すべて紹介しきれず本当に残念でしたが、もっともっとたくさん商品があるので。撮影後にはスタッフで美味しくいただきました!見た目が似ていても、食べてみるとまったく違った味のお菓子が多く驚きました。さて次号は...もう師走ですね...ぜひお付き合いいただければと思います。



第25回 新そばまつり ちちぶ荒川

会場 そば処 ちちぶ花見の里

11月18日(日)
10:00~15:00

そば食数 5,500食 限定

※画像はイメージです。

お問い合わせ先
0494-54-1059 (土日祝を除く)
荒川そばの里づくり連絡協議会(荒川商工会内)

※駐車場は限りがさいますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。
※西武鉄道「西秩父駅」秩父鉄道「武川駅」から無料シャトルバス運行。
中川駅「から無料シャトルバス運行」

会場へのご案内
秩父市荒川総合運動公園 久那保 橋立川 キヤノン工場
秩父鉄道 140
秩父漁業協同組合
礼所29番長泉院
ローソン 秩父荒川上田野店

ラグビーワールドカップ2019™

熊谷ヘラグビーを見に行こう!

2019年 埼玉・熊谷ラグビー場試合日程

9月24日(火) ロシア v サモア
9月29日(日) ジョージア v ウルグアイ
10月9日(水) アルゼンチン v アメリカ

一般抽選販売期間中
2018/9/19(水)~11/12(月)

一般先行販売 2019/1/19(土)~

tickets.rugbyworldcup.com

ラグビーワールドカップ2019™
日本大会公式チケットサイト ID登録受付中!!

埼玉県 熊谷市

TM©RWCL 2015

きりりスロー

第13回
沿線でかがやきつづける方に
インタビュー!
井原 愛子さん
(TAP&SAP/MAPLE BASE代表)



MAPLE BASEを拠点に、
森の恵みを使った
商品開発やエコツアー、カフェなど
秩父のメープルブランドを
プロデュースする井原さん。
原点となる森づくりへの思いを
伺いました。

「カエデの木からメープルシロップを作るのって本当に大変なんです。秩父の森の中でアクセサリしやすいところにあるのは大抵、杉やヒノキの人工林。自生しているカエデは崖に生えていたり、山深い所があったりと辿り着くだけでも「苦労です」と井原さん。

井原さんがカエデの商品プロデュースに関わる契機となったのは2014年。NPO法人「秩父百年の森」が主宰するエコツアーに参加したことから始まる。「その頃、村一品運動という形で、地域の特産物を作って盛り上げていこう」という取り組み

が全国各地で広がっていましたが、そんな中、秩父が着目したのが地元で多く自生するカエデ。ただし、樹液を取って製品化するだけでなくその利益で杉やヒノキを間伐し、カエデを植栽して森の循環を起そうという目的がありました。他では見られない「メープルを軸にした森を守る活動」に強く感銘を受けたことを覚えていてます。

当時、既に活動は活発に行われていたものの、メンバーに若い世代や女性はまだ少なく、対外的にアピールする役割を担える人材がいなかった。外資系企業

で活躍していた井原さんは、秩父のメープルに可能性を感じ「自分ならこれまで培ったマーケティング手法などを生かした仕事ができるはず」と退職して地元・秩父に戻ること。

会社の立ち上げに先立ちカナダへ飛び、メープルシロップ製造工場を視察。そこで目にしたものは「シュガーハウス」と呼ぶ、商品の製造過程の展示やエコツアー、子ども向けに環境教育を行う場所だった。

「足りていないのはまさにこれだ、と思いました。商品をただ並べて売るといっただけでは、こんな

の秩父にあるんだ、珍しいね」で終わってしまいますから。私たちがアピールしていきたく本質的なものは「森を守る活動」そのもの。皆に知ってもらうための拠点がどうしても必要でした。

帰国した井原さんは2016年、樹液の商品販売を行う地元組合と共に日本初のシュガーハウスを設立。商品プロデュースに加え、併設するカフェやエコツアーも手掛ける。山主やNPO、商工会やボランティアなど多くの人の協力で成り立っているというこの活動。テレビや新聞で取りあげられることも増えた

が、「まだまだ道半ば」とその先を見つめる。

「森は1年、2年でどうにかなるものではありません。植栽をした木が大きく育つのは少なくとも15年後。長期的に継続できる仕組み作りをきちんとしておく必要があります。また、『第3のみつ』(5ページ参照)の開発をきっかけに、カエデの樹液や広葉樹の花蜜、野菜や果物のジュースを使った森林養蜂もこれから行っていきたくと考えています。課題はたくさんありますが、一つ一つクリアにして、夢を実現させたいですね」

◀ 詳細は4~5ページで紹介しています